

1, 老人週間記念品交付事業

【財源：赤い羽根共同募金配分金・寄附金・会費等】



目的：各地区で開催される敬老会において記念品を配付し、地域住民と共に長寿をお祝いしながら地域ふれあい交流の推進を図る。

内容：実施場所 竹富町全域

実施日 平成30年9月15日～21日

対象者 80歳・85歳・90歳・95歳・100歳以上



事業実績：平成28年度 95名

平成29年度 73名

平成30年度 80名

地区	人数	地区	人数	地区	人数	地区	人数
竹富	10	大富	5	鳩間	1	祖納	3
黒島	6	古見	2	波照間	16	南風見苑	5
小浜	10	上原	1	新城	2		
豊原	6	浦内	2	大原	7		
住吉	1	白浜	1	干立	2	合計	80

- みーちぬ茶（竹富島）
- 黒糖（小浜島）
- もちきび（波照間島）
- アーサつくだ煮（黒島）
- 黒紫米（西表島）



・八重山特産品詰め合わせセット（1,800円相当）を対象者限定した上で配布することになり、今年も大変好評であった。保育所の協力のもと、子ども達のメッセージ・ぬりえでラッピングが華やかにお祝いすることが出来ました。

2, おじいちゃんおばあちゃんいつもありがとう事業

【財源：赤い羽根共同募金配分金・寄附金・会費等】



目的：高齢者とふれあいをもつことで、お年寄りを敬う気持ちを育み、親しみをもつ。地域の高齢者の方にも地域の幼稚園児を知ってもらい、幼稚園教育への理解へつなげる。

内容：実施場所 うえはら幼稚園

実施日 平成30年9月11日

対象者 上原幼稚園児、職員、園長先生、上原地区老人会、
東部地区民生委員児童委員

事業実績：平成30年度 うえはら幼稚園 参加者54名



・参加した老人クラブより「楽しい時間をありがとうございました。みんなと楽しく過ごしたいです。これからも楽しい計画を宜しくお願いします。」
園児より「オカリナに絵を描くのが楽しかったです。オカリナの演奏も楽しかったです。」

園長より「きれいな音色を聞かせて頂きありがとうございました。参加者が口ずさんでいるのをみてつい私も口ずさんでいました。地域の方々と交流をもてたことは嬉しく思いました。」と、参加者から楽しい時間を過ごせた感想が多く聞かれました。今後も地域のニーズに合わせた交流企画を地域住民と一緒に企画したいと思います。

3. 児童福祉週間行事 鯉のぼり掲揚式

【財源：赤い羽根共同募金・寄附金・会費等】



目的：児童福祉週間行事の一環として、保育所・地域住民等と協働してふれあい交流イベントを開催する。

内容：実施場所 竹富保育所、波照間保育所・幼稚園
※他5ヵ所竹富町保育所

実施日 平成30年4月16日（月）～24日（火）

対象者 園児、保育士、区長・公民館、地域住民、通信員

竹富町民生委員児童委員、サロン団体、

保育園児外（2歳児未満）、保護者、竹富町社会福祉協議会

平成28年度 大富保育所 園児16名、地域住民 総勢53名

平成29年度 竹富保育所 園児12名、地域住民 総勢35名

波照間保育所・幼稚園児22名、地域住民 総勢61名

平成30年度 黒島保育所 園児8名、地域住民

小浜保育所 園児26名、地域住民 総勢105名

他5ヵ所の保育所にて実施 全体372名



保育園児へのプレゼント[手作りキット万華鏡]

未就学園児へのプレゼント[ベビー石鹸、口拭きシート]

サロン参加団体へのプレゼント[ティッシュ2袋]

・石垣島より大道芸人を招き2ヵ所の保育所にてレクレーションを初めて実施。

初めての大道芸人のパフォーマンスをみた子どもたちや住民の方々は驚きと歓声がありみな笑顔で過ごされていました。他各保育所にてふれあい交流を実施。昨年と同様、保育所の雰囲気を感じながら保護者、地域の方々が温かく見守っている姿も感じることができ、大人も一緒に楽しみながら地域で子どもの健やかな成長を願う素敵なイベントとなりました。

4. 視覚障がい者福祉事業

「私を感じるもの、見えるもの」～当事者からのメッセージ～

【財源：赤い羽根共同募金配分金・寄附金・会費等】



目的：障がいの有無に関わらず地域住民が相互に人格と個性を尊重し安心して暮らすことができるようにする。体験をとおして楽しく学び、視覚障がいへの理解へつなげる。

内容：実施場所 西表島 多目的施設

実施日 平成30年11月27日（火）

事業実績

平成28年度	実施回数	1回	当事者	2名	※竹富島、石垣島にて歩行訓練、相談
平成29年度	実施回数	1回	当事者	1名	※石垣島にて歩行訓練、相談
平成30年度	実施回数	1回	当事者含む参加者	22名	



- ・視覚障がい手帳を所持している西表島（西部）が1番多いこともあり、はじめて竹富町在住の当事者の講話だけではなく、地域のヘルスメイトの協力のもと婦人会を中心とした視覚障がいに興味のある方を対象にアイマスク体験教室を開催しました。
- ・当事者、当事者家族等関係者含め、多くの住民が参加していただき、視覚障がいについて楽しく学ぶことでより充実した時間を過ごすことが出来ました。参加者は理解を深めるとともに、今後、自分に何が出来るか、思いを巡らせていました。
- ・当事者と一緒に前回と同様に次年度の取り組み内容を確認、相談を行いました。町出身者として、他島にて地域の子ども達、地域住民への講話や体験教室への協力を引き続き行っていきたいとして当事者の生きがいにも繋がっています。

5, 生活福祉資金貸付事業

【財源：県社協受託金】

目的：町内低所得者の自立更生を図る

内容：実施場所 竹富町全域

実施日時 平成30年4月～平成31年3月

対象者 生活福祉資金長期滞納者（10名） 町内生活困窮者

事業実績

年 度	償還指導	償還完了	貸付相談
平成28年度	9名（延べ31件）	2名	2名（延べ9件）
平成29年度	7名（延べ45件）	0名	2名（延べ3件）
平成30年度	8名（延べ51件）	0名	5名（延べ29件）

- ・必要に応じて返済方法についての生活困窮者自立支援制度等関係機関と連携しながら確認、調整等を行うことで元金の返済を終えたものが1件（残り延滞利子のみ）。
- ・定期的な償還指導を行うことで、信頼関係づくりに努めました。
- ・新規1件有。

6, 戸別総合相談事業

【財源：会費、寄付金、町補助金】

目的：制度の狭間にある方の日常生活におけるさまざまな心配ごとや、困りごとの相談に応じ、助言や諸制度の紹介、又関係機関等へつなぐ調整を行い、誰もが安心して暮らせるまちづくりの推進を図る。

内容：実施場所 竹富町全域

実施日時 平成30年4月～平成31年3月

- 実施方法
- ① 戸別訪問による気になる家庭への支援
 - ② 民生委員と気になる家庭への同伴訪問
 - ③ 関係機関との情報交換
 - ④ 社協内相談窓口での相談受付

事業実績

年 度	訪 問	電 話	来 所
平成28年度	1名（延べ1件）	4名（延べ15件）	1名（延べ1件）
平成29年度	2名（延べ2件）	2名（延べ7件）	3名（延べ3件）
平成30年度	1名（延べ1件）	3名（延べ10件）	0名（延べ0件）

- ・傾聴をして、本人の気持ちを整理し不安を少し取り除くことに努めました。
- ・制度やサービス等の説明を行いました。

7, 結のまちづくり活動助成事業

【財源：赤い羽根共同募金・歳末たすけあい運動配分金・寄附金・会費等】



目的：共同募金の一部を財源として「住み慣れた島で安心して暮らせるまちづくり」の推進に取り組む団体・グループ等に対し公募によって申請を受け、助成金を交付。

【赤い羽根共同募金】

NO	団体名	事業名	助成額
1	細崎公民館	細崎の日「歌魚祭」	60,000 円
2	FC PAPAYA Jr.	竹富町初の小学生サッカーチーム 児童健全育成プロジェクト	70,000 円
3	船浦婦人会	伝統黒紫米ぜんざい継承と 島産フルーツ氷メニュー開発	40,000 円
4	上原老人クラブ	老人の自立を推進する活動	50,000 円
5	美原公民館	花いっぱい活動と地域の健康づくり	85,000 円
6	西表青年会	西表青年会舞踊教室	30,000 円
7	古見・美原子ども会	古見・美原子ども会 私たちのふるさと発見第2弾	50,000 円
		合 計	385,000 円



【年末年始ふれあいイベント助成】

NO	団体名	事業名	助成額
1	中野公民館	新年会（グラウンドゴルフ・餅つき大会）	30,000円
2	船浦公民館	新年餅つき大会	30,000円
3	大富子ども会	交通安全の看板・人形作り	30,000円
4	小浜婦人会	忘年会	10,000円
5	干立公民館	大忘年会	30,000円
6	白浜公民館	新年会・成人式	30,000円
7	大原子ども会	クリスマス会	30,000円
8	黒島婦人会	黒島婦人会と高齢者の新年交流会	30,000円
9	細崎公民館	細崎グラウンドゴルフ大会	30,000円
10	大原青年会	新春大原青年会 大もちつき大会	30,000円
11	古見公民館	グラウンドゴルフ大会（第3回平山杯）	30,000円
12	船浮婦人会	クリスマス会&新年会	30,000円
13	波照間婦人会	「ウォークラリー」波照間探検隊	30,000円
14	竹富婦人会	「よんなー深呼吸＋交流会」（健康促進）	10,000円
15	上原子ども会	新春お楽しみ会	30,000円
16	黒島子ども育成会	クリスマス会	30,000円
17	豊原子ども会	豊原子ども会クリスマス会	30,000円
18	浦内公民館	新年会	30,000円
19	浦内子ども会	浦内子ども会クリスマスお楽しみ会	20,000円
20	干立子ども会	クリスマス会	10,000円
21	古見・美原子ども会	クリスマス会	30,000円
22	美原公民館	新年会	30,000円
23	西表青年会	クリスマス会	30,000円
24	小浜子ども育成会	クリスマス交流会	30,000円
		合 計	650,000円



8, 児童ボランティア育成

【財源：赤い羽根共同募金配分金・寄附金・会費等】



目的：ボランティア活動や福祉教室等を通して、「住んでいる地域で自分にできること」へ“気づき”を促し、安心して豊かに暮らせる地域づくり推進に児童生徒が積極的に携わっていただけるよう支援する。

①ボランティア推進指定校

活動助成金を交付し、学校単位で様々なボランティア活動を計画し、実践した。

実施場所 古見小学校・上原小学校

実施日時 平成30年4月1日～平成31年3月31日

対象者 小学校児童生徒

（古見小学校：2年目）

平成30年11月23日（金）学習発表会にて学童募金の贈呈式及び中間報告会他

平成31年3月19日（火）古見小学校 校長室にて校長、担当職員と振り返り



（上原小学校：1年目）上原小学校の校舎の周辺及び運動場の清掃活動



事業実績

学校名	ボランティア活動内容	参加人数
古見小学校 (2年目)	・ゴミ0運動(古見の浦の海岸沿いの漂着ゴミの回収)	全学年 7名
	・学校菜園で収穫した野菜を地域の方々へ届けよう～日頃の感謝を含め～	全学年 7名
	・社会科学習(単元名:第4学年「健康なくらしとまちづくりごみはどこへ」)で学んだことを地域の人へ伝えよう!(ゴミの分別・ゴミに対する意識を変える)	2学級 3名
	・古見っ子オリジナル募金箱を作ろう!	全学年 7名
	・地域のお年寄りの方々との交流しよう!	全学年 7名
	・敬老会での余興	全学年 7名
	・募金活動(赤い羽根共同募金)	全学年 7名
	・地域のお年寄りを学校に招いて一緒に給食を食べよう!	全学年 7名
	・1人7鉢運動(交通安全週間)	全学年 7名
	・地域の方にお花のプレゼント(マリ-ゴ-ルト)	全学年 7名
	・学校周辺の清掃活動(常時活動)	全学年 7名
	・花を植えよう(花作り)	全学年 7名
	・地域清掃への参加	全学年 7名
		合計

活動推進のねらい

- (1) ボランティア活動をすることで、人の気持ちが変わり、地域は人と人とでつながっているということを再認識する。
- (2) 学校外の社会とつながることで、地域の良さや地域が抱える問題が「自分ごと」になり、地域との係わり方や自分の在り方を見つめ直すきっかけにする。

今年度の効果

- (1) ゴミ0運動では、海岸に漂着するゴミについて身近に感じる良い機会になった。日頃の生活でゴミを分別することの大切さ、ポイ捨てをしないことの大切さを改めて考える機会となった。

今年度は栽培園で育てた野菜や育てた花を日頃の感謝の気持ちを込めて地域の方々へプレゼントをした。自分たちが育てた花を、自分たちで配布することで、「ありがとう」と言われたりすることで嬉しくなり、次は何をしようかな?という意欲につながっていたことに成果があった。

前年度同様に赤い羽根共同募金活動は、全児童が主体となり活動した、特に街頭募金では去年は1回であったが、2回に増やすことを決めて、募金活動を行った。今年度も学習発表会の中で贈呈式を行い社会福祉協議会の会長さんからお話をいただいたことで、ボランティアの意義について再確認でき、児童の意欲につながったように思う。

反省点

- (1) 計画的に活動するための、活動する時間の確保。

今後の課題

- (1) 活動の計画の見通しが前年度では見えない部分があるので、必ず4月にある程度計画の見直しをもつ。
- (2) 連絡調整が必要な機関との活動実施等の調整の仕方。

事業実績

学校名	ボランティア活動内容	参加人数
上原小学校 (1年目)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週月・水・金の8:10～8:25(15分間) [1～2年生] じょうろやペットボトルじょうろを使って水かけ 1年生：中庭のプランターやお花 2年生：校門近くの植物 [3～6年生] 月曜日…校舎や体育館周り 3・4年生：体育館周りと校舎裏、専科教室の前ろうかの清掃 5・6年生：校門～児童玄関、池の周りの清掃 水曜日…校舎外の清掃 3・4年生：信号機～上原港行「上原小前バス停」までの清掃 5・6年生：信号機～橋の手前までの清掃 金曜日…グラウンドや周辺の芝のかき集め 5・6年生：レーキや竹ぼうきなどを使って、刈られた芝を集める 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生 20名 2年生 11名 3年生 22名 4年生 11名 5年生 14名 6年生 11名 職員 12名
	合 計	101名

活動推進のねらい

- (1) 上原小学校の校舎の周辺及び運動場の清掃活動、地域へのボランティア活動を通して豊かな人間性を育むとともに自分たちの環境を良くするために自ら進んで働く意欲と態度を育てる。

今年度の効果

- (1) 週3回、を毎週行うことができた。(夏休み、冬休み、春休み以外)累計100回以上の活動を行い、学校周辺や学校近くの地域の美化活動に寄与することができた。
- (2) 緑化活動を行い草木や花がいっぱいの学校づくりをすることができた。
- (3) 児童自ら、学校や地域をきれいにしようという意識が芽生えてきた。また、朝の活動が習慣化してきた。
- (4) 朝活動をすることで、1時間目にすっきりとして授業に臨む児童が増えた。
- (5) 昨年から継続した活動により、児童の活動への意欲を高めることができる。
- (6) 昨年度より地域の方々より感謝の声をたくさん頂いており、今年度も継続して行い、地域に根ざした活動にしていきたい。
- (7) 地域の老人の方々との触れ合いを予定している。

反省点

- (1) 朝のボランティア活動が初年度だったため、職員が効果的な児童への指示ができていない場面があった。
- (2) 児童数に対して清掃道具の数が足りなくて効果的な清掃ができない時があった。

今後の課題

- (1) 清掃用具を十分に補充する。季節によって汚れている箇所が違うので、その時期に応じた計画を行っていく。
- (2) 新職員も含め、4月にボランティア活動の共通確認をし、全校態勢、全職員態勢で行い、効果的な児童の活動にしていく。

②福祉教室の開催

独居世帯や気になる家庭等を対象に子ども達が登下校中にためらうことなく積極的に「声かけ」が出来ることを目標に、その第一歩となるようフィールドワークを行った。

実施場所 西表東部地区（大原小学校）

実施日時 平成30年6月26日

参加人数 4年生11名、教職員2名、
地域高齢者協力者2名（豊原、大原地区）、地域協力者2名、
竹社協3名



オリエンテーション&各班感想発表



車や徒歩で訪問先へ移動



（豊原地区）



（大原地区）

- ・ 受入宅の協力者の方、子ども達もお互いが訪問することを楽しみにしている様子も伺え、お互いにより関係づくりが出来る機会だと改めて感じました。
- ・ 子ども達は事前学習してきた質問だけではなく、質問の答えからどんどん会話を広げていく様子もありました。今回のふれあいインタビューを通して、子ども達だけではなく、地域の方々にとっても積極的に「声かけ」が出来る関係性のきっかけになりました。

[振り返りシート]より

- ・ 今日、大原のあらなみさんの家にインタビューに行って、私は給食の様子やメニューのしつ問で昔は給食がないことにとてもびっくりしました。そして、給食がなかったので自分で作ったものを食べていることを知りました。そして、マラリアにかかっても医者がないので、小さいみずをつぶしてせんじて水といっしょに飲んでいたのでおどろきました。インタビューで昔のいろいろなことが知れてよかったです。
- ・ わたしは、今の世界は平和だと思うかのしつ問で、「まだ平和だと思わない」と、言ったので、びっくりしました。まだ、平和だと思わない理由は、「日本以外の国で、まだ戦争がおきているから」だそうです。わたしは、すごく深い考えだと思いました。昔はまだ、給食もなかった時代があったので、すごく大変だったのだと思いました。
- ・ ぼくは、毎日の生活の中で気をつけていることのしつ問で、「あしをきたえるために毎日あるいている」といっていました。あと1つ「自分にできることは自分でやる」と言っていました。昔の遊びは、輪をかいて、ケンケンをしていたそうです。ぼくは、昔のことを聞いて昔はあまり楽しい遊びはなかったからかわいそうだと思います。
- ・ 今日のインタビューで、働くときに大事にしたほうがいいことは、勉強やスポーツと言っていたけどぼくの予想はあとのことも考えるでした。あと平和だと思えますかと、きいてみたら平和じゃないと思うと言っていたからです。なぜなら国きょうがあると平和じゃないと言っていたので、ぼくはビックリしました。理由は、全部が平和じゃないと平和じゃないと言っていたからです。
- ・ 今日、ぼくはインタビューをして給食の時はパンと粉ミルクしかなかったことにおどろきました。ほかにもわかいころの仕事をきくと戦とうきを洗う仕事をしていたときにおどろきました。そして、今の世界は平和だと思いますか。というしつ問には「思わない」と答えました。国きょうがあるかぎり世界は平和じゃないと言ったので納得しました。
- ・ 今日、インタビューをしにいて質問②で☆給食の様子で学校に給食はなかったと聞いてびっくりしました。だから学校から帰ったら、自分で料理をして食べていたことを知りました。そしてマラリアにかかったら病院はなかったのでミミズをかんそうさせてつぶしていたことを知りびっくりしました。昔の人はとてもたいへんだとわかり自分にできることをしっかりやりたいです。
- ・ 今日、インタビューをして、一番おどろいたことは、給食の様子です。予想をたてて、最初は、牛乳がなくて、おにぎりとみそ汁ぐらいだと思っていました。だけど聞いてみたら、弁当を持っていっていたそうです。6年生になって、パンだけ出て、おかずは持っていっていたそうです。牛乳は粉ミルクで、夏休みに家に粉を持って帰っていたそうです。お金は、ドルでもらっていたそうです。昔は大変なことが分かりました。

- ・わたしは、給食の様子を質問して、びっくりしたのは、「給食は、なかった。自分で畑にいて、とって、食べていた」という答えがでて、わたしはびっくりしました。それとびっくりしたインタビューは、なみさんのだんなさんは、マラリアをぜつめつさせた人なので、すごいと思いました。これもいい勉強になったのでよかったです。
- ・ぼくは、毎日の生活の中で気にしていることを聞いて、10年前はあんまり考えていなかったけど、今は野菜をいっぱい食べたりしているそうです。それに対してぼくも野菜を食べていこうと思いました。小学生のころの教科は、国語・算数・理科・家庭科の授業をしていたことを初めて知れました。
- ・私は今日、インタビューをして、給食の始まりはこなミルクとパンで、おかずはもってくることを知りました。私は、イモやおにぎりがあると思っていたので、おかずはもってくるの大変だなと感じました。そしておどろいたのは、遠足でアイスクリームの工場見学に行っていたことです。なぜなら、私の中ではてんぼう台とかに行っているイメージがあるからです。話を聞いていると、昔は今ではありえないことやおどろきがたくさんあったのでとてもびっくりしました。
- ・今日、インタビューを行って、「給食の様子」についてインタビューしました。その質問の答えは、給食がなく、自分で作っていたので昔は大変だと思いました。その次は、「昔の家はどんな物なのか」をインタビューしました。その質問の答えは、屋根がかわらやかやぶきなので、あらためて平和はいいなと思いました。インタビューをして知らなかったことを知れてうれしかったです。

【これから出来ること】

- ・会ったら自分から進んであいさつをする。
- ・会ったらお話をする。
- ・あきらめないでがんばる。
- ・会ったらあいさつをする。
- ・自分から進んであいさつする。
- ・おじいちゃんやおばあちゃんに会ったらあいさつをする。
- ・声をかけたりする。
- ・なんでもいっしょうけんめいにがんばる。
- ・おじいちゃん・おばあちゃんに会ったら、元気良くあいさつをして、昔のことについて聞いたりして、おじいちゃん・おばあちゃんとの関わりをつくる。



9, ボランティア活動推進

【財源：赤い羽根共同募金配分金】



目的：町内ボランティアの人材育成、資質向上を行い、地域ネットワークの推進、地域福祉力の向上を図った。

実施内容：・地域リーダー、ボランティアの育成
・県社協、石垣市で開催される研修会等への派遣
・ボランティア登録推進
・ボランティア保険受付

事業実績：

■ボランティア登録推進■

平成 27 年度 12 団体 68 名、平成 28 年度 10 団体 56 名
平成 29 年度 11 団体 63 名、平成 30 年度 10 団体 52 名

■ボランティア学習・福祉教育セミナー2018■

本セミナーは、学校と地域が協力して進める福祉教育の実践事例を通して、これからの福祉教育に必要な視点や展開について考え、沖縄県における福祉教育が広がり、子どもたちの学び合いが深まることを目的に開催。

日 時：平成 30 年 8 月 17 日（金）

場 所：沖縄県総合福祉センター東棟 4 階 403 号室

内 容：「学校・地域・家庭の協働による地域共生社会の実現をめざした福祉教育」他
講師・新崎国広（大阪教育大学教育学部教育協働学科教育心理学講座教授）

参加者：竹富町内小中学校教諭 2 名 竹社協 1 名

[講義を受けてみての感想]

- ・大原中学校教諭：慶田盛よし乃さん（ボランティア指定校平成 31 年度～2 年間予定）
とても心を揺さぶられる講演でした。特に印象的だったのは、「依存力を高めるということです。「自立とはいかに信頼できる人がいるかということ」ととても心に響きました。また、福祉教育についても、これまではただ、車いす体験やアイマスク体験をさせるだけで、それは福祉教育でないということにも気付くことができました。地域社会の一員として、自分が何ができるかを考えることが大切だと思いました。「お節介な人間」になれるよう精進していきたいと思います。
- ・上原小学校教諭：安里築さん（ボランティア指定校平成 30 年度～2 年間）
「地域の福祉力・教育力」を高めるためにはどうすることが重要かを考えさせられました。一番印象に残ったのは、自尊感情や依存力というキーワードです。自分が関わった子ども達が肯定感を持って学校生活を過ごし、クラスメートに頼りながら、クラスメートにお節介するようなクラスを作っていけたらと思いました。

■平成 30 年度ボランティア情報交換会■

地域リーダーやボランティアの資質向上を行い、地域ネットワークの推進、地域福祉力の向上を図ることを目的に開催。

日 時：平成 30 年 3 月 18 日（月）

場 所：ろうきん八重山支店 2 階会議室

内 容：1. ボランティア基礎研修ワークショップの振り返り

2. アイスブレイク

3. 情報交換会

・ボランティアをされていて幸せと感ずることは？楽しいことは？

・新しい発見は？気づきは？

・2019 年 4 月～2020 年 3 月 やってみたいこと、できそうなことは？

4. グループ発表

参加者：竹富町ボランティア 23 名、竹社協 3 名



[参加者の声]より

- ・ ボランティア情報交換会に参加して、皆さんの情報を聞いて大変楽しくよかった。
- ・ 楽しい交換会でした。一年に一回といわず、2, 3 回でもー。
- ・ 2 回目の参加でしたが、大変楽しく出来ました。たくさんほめてもらい心が明るくなり嬉しく、ウキウキの気持ちになりました。ありがとうございました。
- ・ 各サロンの情報をいろいろ聞いて参考になった。若いボランティアの参加が無く、これからのこともいろいろ聞けた。
- ・ 楽しい時間ありがとう。今後ともよろしく。元気が出ます。
- ・ 今日の皆様の思っていることやご意見たいへん良かったので楽しかったです。
- ・ 各サロンの活動が良くわかり楽しく有意義な時間でした。交換会次回も楽しみです。
- ・ 他のボランティアさんの考え方やサロンの活動が聞いてよかったです。参考になります。
- ・ 今回は楽しく情報交換も出来ました。ボランティアも、もうすこし若い方が参加出

来れば良いと思います。

- ・他のサロンの人たちとゆんたくを通して活動状況を聞くことが出来て良かった。
- ・他地区のサロンで行っていることなどを参考に出来る。
- ・初めて参加したが、皆和気あいあいと笑顔でお話しされているのを見て、他サロンとの交流を頻繁に行い、情報交換をする機会が多々あればと思った。すんなりと溶け込めるグループに入れて有難かった。
- ・他のサロンの方たちとお話しできてとても楽しかったです。そして色々情報がもらえて良かった。
- ・久しぶりに顔見知りの方と会って気軽にいろいろなおしゃべりが出来てとても楽しい時間を過ごせました。他のサロンの情報等、島がちがえばサロンの持ち方も違って興味がわきました。
- ・はじめての参加でしたが、他の島の方達も色々頑張っている事を知り、パワーをもらえました。
- ・楽しい一日でした。ほめ上手、ほめられ上手になれる様ボランティアをやっていこうと思います。
- ・5~6名のグループで丁度良かったです。内容も良かったです。
- ・とても楽しい情報交換会でした。
- ・自画自賛を続けると、人、相手をほめることが出来るように成ると言われ今日から実行しようと思う。
- ・和やかな雰囲気の中で楽しい交流会でした。ありがとうございました。いろいろなゲームなど考えなどいろいろ参考になりました。
- ・今日の情報交換会お疲れさまでした。とても良かったです。いろんな情報を得たので持ち帰って取り入れていきたいと思います。(絵本の読み聞かせ、エプロンシアター等)
- ・とっても楽しかったです。又お願い致します。皆と会えたこと嬉しいです。
- ・ほめ合いゲームやグループ発表等をし、サロンの活動に役立てたいと思います。今日は楽しかったです。ありがとうございました。



10、結のまちづくり推進事業

【財源：赤い羽根共同募金配分金・寄附金・会費等】



目的：地域内で発生している福祉課題を地域住民全体の問題としてとらえ、住民全体の問題としてとらえ、住民相互の助け合い・ふれあい活動を基本に解決できるよう、地域支え合い体制の基盤づくりを推進する。

- ・事業説明会 ・座談会、ゆんたく会の開催
- ・結のまちづくり活動助成団体への支援

実施場所：結のまちづくり助成金交付地区 他

事業実績

日にち	地区	内容
7/5	細崎	交付式及び事業説明、座談会
7/12	豊原	事業説明及び相談会
7/13	大富、古見、美原	交付式及び事業説明会、座談会
7/14	浦内、船浦	交付式及び事業説明会、座談会
7/18	中野	中野婦人会へ事業説明及び相談会
7/23	上原、干立、祖納	交付式及び事業説明会、座談会

- ・交付式に合わせて近隣地区の公民館長等も一緒になって懇談会を開催しました。引き続き、地域住民と協働しながら、地域に合わせた地域福祉活動の推進に努め、公民館、関係機関と連携を図っていきたい。



1 1、共同募金運動の推進 【財源：県協募事務費（共募会計）】



目的：竹富町共同募金運営委員会で決まった事業計画に沿って、住民参加のもと募金運動に取り組む。

内容：実施場所 竹富町全域・石垣市
実施日時 平成30年10月1日～12月31日

実施方法：戸別募金・法人募金・学校募金・職域募金・個人募金・その他

○出発式 上原小学校（上原小学校の児童生徒・地域住民）10/1



○街頭募金活動



○募金箱の制作、設置

(H28 年度 47 ヶ所設置) (H29 年度 58 ヶ所設置) (h30 年度 53 ヶ所設置)

上原小学校



古見小学校



○沖縄県共同募金委員会受賞報告及び、伝達式



○共同募金運営委員会の開催 (年3回)

○共同募金審査委員会の開催 (年3回)

○その他 啓発活動



○募金贈呈式の開催



H30. 11. 13 黒島小中学校



h30. 11. 15 大原中学校



H30. 11. 15 西表小中学校



h30. 11. 20 船浦中学校



H30. 11. 23 古見小学校



H30. 11. 29 波照間小中学校



H30. 12. 11 大原小学校



H30. 12. 20 竹富町商工会建設部会

事業実績

【赤い羽根共同募金】

年度	目標額	実績	達成率
27年度	2,090,000円	1,888,082円	90.3%
28年度	2,050,000円	2,193,291円	107%
29年度	2,079,000円	2,201,105円	105.9%
30年度	2,062,000円	2,836,409円	137.6%

(内訳)

戸別募金 :	503,642円	職域募金 :	154,107円
学童募金 :	182,323円	法人募金 :	1,826,290円
個人募金 :	24,529円	その他 :	145,518円

【歳末助け合い運動】

年度	目標額	実績	達成率
27年度	850,000円	1,034,800円	121.7%
28年度	850,000円	1,085,085円	127.7%
29年度	900,000円	1,297,527円	144.2%
30年度	900,000円	1,492,136円	165.8%

(内訳)

戸別募金 :	558,800円	職域募金 :	134,000円
法人募金 :	761,000円	個人募金 :	23,336円
その他 :	15,000円		

- ・ 区長会議をはじめ、各事業に合わせて共同募金の周知活動、新聞掲載等を行うことで日頃から地域住民へのお礼、協力願いを丁寧に行いました。
- ・ 事務局内での募金活動の準備、協力体制を強化。法人含めて地域住民のご理解、ご協力もあり、目標額を達成できました。
- ・ ボランティア指定校だけではなく、学童募金の贈呈式を行う学校の増加、また指定校外でも街頭募金をするなどの自主的取り組みもありました。

1 2, 日常生活自立支援事業の推進

【財源：赤い羽根共同募金配分金・寄附金・会費等】



目的：認知症のお年寄りや、知的障がい・精神障がいのある方が、自身だけでは、生活に必要な手続きや、お金のやりとりをすることが難しく、生活に不安を感じている場合に、本人との「契約」に基づき、支援する。

内容：実施場所 波照間島（1名）

実施期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

実施方法 県社協より八重山地区の業務委託されている石垣市社会福祉協議会と協働し、生活支援員の育成を行い、サービスを提供する。

- ・基幹である石垣市と協力して業務を対応。基本、2ヶ月に1度、波照間島へ渡り出金状況の確認を行っています。
- ・前年度に引き続き、波照間島以外の島での生活支援員の育成等が課題である。
- ・出張所がない島でのサービス利用について検討が必要。
- ・竹富町民生委員児童委員協議会の定例会にて勉強会及び情報交換会を行いました。
- ・石垣市、与那国町の担当で宮古島視察研修を行いました。

用務：日常生活自立支援事業の市町村型へ移行に伴う視察研修

目的地：宮古島

内容：事務所内見学・支援同行・支援流れ・支援後の対応・情報交換会・宮古島市社協概要説明

用務経過：平成31年1月29日（火）～30日（水）

地域住民が集まっている場へ出向き、社協の事業説明を来ないながら地域住民との交流を深めていく中で、対象者だけではなく支援員の発掘につながっていくのだと感じました。

平成31年度は予算確保がされていないこともあり、広報誌等も活用しながら住民へ周知活動を行いたいと思います。

また、竹富町には課題（財源、金庫設置、支援員発掘、周知活動等）も多くある中、事業を利用することで少しでも島に安心して過ごせることが出来るのか、専門員としての役割はもちろん、役場・関係機関と連携しながら実績を残すことで行政理解からの予算確保に努める事が大切だと改めて感じました。

13、歳末たすけあい義援金配分事業 【財源：歳末助け合い運動募金】



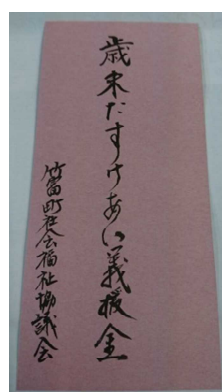
目的：新年を迎える時期に、生活困窮世帯（非課税世帯）で支援を必要とする人たちが地域で安心して正月を迎えられるように、歳末助け合い募金の一部を配分する。

内容：実施場所 竹富町全地区
 実施日時 平成30年12月下旬
 実施方法 区長民生委員による配分対象者調査後、実施要領に基づき配分額、配分対象者を決定する。

事業実績

【平成28年度】一人当たり 15,000円 計56名
 【平成29年度】一人当たり 15,000円 計50名
 【平成30年度】一人当たり 10,000円 計55名

地区	人数	地区	人数	地区	人数	地区	人数
竹富	5	干立	3	白浜	4	大富	5
黒島	1	美原	2	鳩間	1	合計	55
小浜	3	古見	5	波照間	16		
細崎	1	大原	7	祖納	2		



- ・要項（県）の実施方針によると、義援金配分の縮小及び地域づくり事業等への配分拡大が明記されているため、4年前より年末年始に地域で開催される行事等へ重点的に行っている。
- ・義援金配分額が他市町村より多かったことから（他市町村は5千円程度、もしくは物品）30年度は10,000円とした。
- ・配分者調査を区長と民生委員にお願いし、区長を通して配布しました。



1 4、 社協会員募集推進

【財源：赤い羽根共同募金配分金】

目 的：町内地域福祉の積極的な推進における財源確保のため、社協の活動と趣旨を住民に啓発し、会員募集推進を図る。

実施場所 竹富町全域

実施期間 平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

(強化月間 4 月～7 月)

実施方法 各地区区長、法人等に依頼文書を発送
会員募集チラシの配布

事業実績

(円)

年 度	戸別会員	賛助会員	特別会員	合計
29 年度	520,500	127,000	460,000	1,107,500
30 年度	542,250	76,000	470,000	1,088,250

- ・新城地区からの会費収入が無かったが、それ以外の地区からはご協力いただくことができた。
(強化月間内にご協力のなかった地域や法人には年度内に依頼文書発送を行い、ご協力いただいた)
- ・春の大清掃前に合わせて 4 月中に発送を行ったことが会費収入増につながったと思う。
- ・特別会員は年々増えており、今年度は大口会費があり、収入増につながった。
- ・小中学校は 2 校ご協力いただけなかったが、新年度は声掛けを強化し、ご協力いただけるよう努めていく。

《今後の課題》

- ・会員増に向け、今後の周知方法の見直し検討が課題である。
- ・賛助会員・特別会員の増に向けた取り組み強化が課題である。

15、生活困窮者等への支援 【財源 会費、寄付金、歳末たすけあい】



①法外援護事業 ②フードバンクの設置

目的：生活保護法、その他社会福祉関係法による適用の対象とならない一般生活困窮者に対し、予算の範囲内で金品等の支給措置を講じ、緊急かつ一時的に支援を行う。

対象者：①竹富町に住んでいる者 ②被援護世帯であり、突発的に支援が必要な者
③その他、会長が認める被援護者

援護内容：突発的緊急時に伴う医療関係機関受診に係る船賃（実費負担）
突発的緊急時に伴う食材等の現物給付 支給限度額は5,000円とする

事業実績：平成28年度 0件
平成29年度 0件



平成30年度 3件

男性2人（現金5,000円、3日分の食料）（2食分）

女性1人（現金5,000円、4食分） 社協事務所内にあるフードバンク（例）

16、車椅子貸出事業

目的：一時的に車椅子を必要とする人に対し、車椅子を貸出することにより日常生活の便宜を図り、その福祉の増進に資する。

対象者：竹富町内に住所を有し、一時的に車椅子を必要とする者。
他、会長が認める者。

事業実績：竹富町社会福祉協議会事務所内車椅子使用車数 28年度 10名
29年度 12名
30年度 15名

※不定期に車椅子の状況確認を行いました。

車椅子設置場所・台数：

- 竹富町社会福祉協議会事務所 2台
- 波照間島 すむづれの家 3台
- 竹富島 竹富港ターミナル 1台、竹富事業所さみん 1台
- 西表島（東部） 西表事業所さみん 3台
- 鳩間島 鳩間港ターミナル 1台
- 黒島 黒島港ターミナル 1台
- 小浜島 小浜港ターミナル 1台
- 西表島（西部） 西部出張所 1台、上原港ターミナル 1台、船浮公民館 1台



17, 関係機関への参加協力等

目的：ゲートボール大会や研修会の際に職員派遣要請があった場合、参加協力し、イベント運営を支援する。

実施場所：竹富町内・石垣市内

事業実績：

団体名	内容	内容	参加協力人数	開催日	開催場所
竹老連	ゲートボール大会・芸能発表会	参加協力	1名	平成30年 6月2～3日	・黒島小中学校 ・黒島伝統芸能館
	八重山地区老人スポーツ大会	参加協力	2名	平成30年 10月14日	・石垣市 新川小学校 運動場
第6回八重山地区障害者スポーツ大会	事前準備 当日参加協力		4名	平成30年 7月7日	・石垣市運動公園 室内練習場
やまねこマラソン	参加協力		3名	平成31年 2月9日	・上原小学校 (西表島西部)

18, その他

・社協だよりの発行（年2回）※1、8ページカラー



- ・竹富町民生委員児童委員協議会への協力（会計補助・事務補助）
- ・八重山地区民生委員児童委員協議会（会計）

19, ふれあいサロン事業実績報告書

事業目的 住み慣れた地域で、いつまでもいきいきと住み続けられること
地域でたのしみ、生きがい、社会参加を促し「引きこもり・閉じこもり」等孤立しがちな人たちが、気軽に集まれるサロン活動を支援し楽しく明るい地域づくりに寄与することを目的とします。

事業実施期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

実施内容 ①レクリエーション(合唱・踊り・輪投げ・ゲーム・習字等)
②手工芸(塗り絵・工作等)
③未就学児・小中学生との交流会(お餅作り・手遊び・ゲーム等)
④クリスマス会・誕生会
⑤遠足(島内・石垣島)
⑥グランドゴルフ・ゲートボール・ペタンク
⑦料理教室・茶話会等
⑧健康体操等(脳トレ・軽体操・など)
⑨カラオケ

実施グループ名	実施場所	実施日	活動時間	登録者数	利用延数	ボランティア登録数	ボランティア延数
あしながおばさんの会(東部)	離島総合振興センター	第2月曜日	10:00～ 13:30	17	127	10	77
人生ゆいまーる会(白浜)	海人の家	第3火曜日	10:30～ 13:00	7	66	8	74
結の会(祖納・干立)	祖納公民館	第3木曜日	10:00～ 13:00	15	103	7	59
ほほえみの会(竹富)	高齢者 コミュニティーセンター	月1回	10:00～ 13:00	18	141	10	101
まーまーず(竹富)	高齢者 コミュニティーセンター/ゆくい 処	毎週木曜日	10:00～ 14:00	11	374	2	88
豊原しらゆり	開拓の里	第1・3 金曜日	14:00～ 16:00	4	84	2	37
大富ふれあいサロン	大富公民館	第3水曜日	13:30～ 15:30	14	105	6	54
大原ばいぬサロン	大原公民館	第2水曜日	13:30～ 15:30	10	42	3	28
こみゆサロン(古見・美原・由布)	美原公民館	第2水曜日	10:00～ 12:00	16	98	2	20
ハイビスカスは一もにー(波照間)	波照間 ふれあいセンター	月1回	AMorPM 2時間	9	73	4	30
総計				121	1213	54	568

【事業成果】

- ゆんたく、軽体操、ゲーム、カラオケ、脳トレなど、ボランティアの工夫によって、参加者がサロンを楽しみにしている
- 普段は、一人で食事している参加者もあり、皆と一緒に食事することが、楽しみになっている。また普段気づかない状況にもボランティアが気づくきっかけになっている
- 服装や髪型などにも、気を使い、気分転換になっている。
- 月一回及び毎週のサロンによって、家に閉じこもりがちの方が楽しめる場所や、見守りが出来ている
- ボランティアが、参加者の身体や、心が元気になれる活動を心掛けている。その気持ちが伝わり、安心感が築けている
- 参加者の方とボランティアの方も、一緒に楽しく活動出来る住民主体で活動するサロンが増えた

♪事業評価

- サロン開催にあたり、ボランティアや参加者の何気ない動作や言葉から地域課題に気づく場合もあるため、地域の方に声掛けをし、声を聞き、解決に向かって支援し、連携機関へ繋がった
- 地域の中で出来るよう支援していった
- 保育園、幼稚園児や小学生等地域の子供達との交流から、日常生活でも声を掛合う習慣が出来る等、きっかけづくりに繋がった
- 石垣島や由布島、船浮等へ遠足を行い、普段は遠くまで外出することが少ない利用者に大変喜ばれた
- 各サロンで、軽体操や嚙下体操を行い、転倒、誤嚥予防に重点をおきいつまでも住み慣れた地域で元気に過ごしてもらえるよう支援した
- 休止中のサロンや、これから立ち上げたいという所にも、活動に向けて地域のかたと話し合いをもち支援した
- ボランティア同士の情報交換会を行い、他地域との交流や情報交換が出来、ボランティアの意識向上や活動の刺激に繋がった。

☆今後に向けて

- 年々各サロンでは、ボランティア、参加者の高齢化、高齢化に伴い見守りや付添等が増え、ボランティアの負担が増えている。また高齢化、マンネリ化もあり参加者の参加人数、ボランティアの数も減ってきている
話し合いながら、可能な限りの支援体制や、活動計画の見直しなど解決に向けて支援を行っていく。
- 以前は出来ていた活動が、近年「目が見えない」「手が動かない」「長時間歩けない」などで活動に制限が出ている利用者も増えている
限られた活動でも出来ることを見つけ、満足出来るよう支援を行っていく
- 活動に参加されていない方も多くいるので、ボランティアと協力しながら、参加できるように支援を行っていく
- 他地域のボランティア同士の研修や交流の場をつくり、サロン活動の活性化、ボランティアの育成、新規ボランティアの獲得に向けて支援を行っていく
- 声掛け、見守り、送迎等ボランティアの負担が多い為、軽減を図れるよう他事業と連携を図りながら、引き続き支援していく
- ボランティアの気持ちと利用者の気持ち、地域特性等それぞれ違っても、皆が満足し、楽しめるように支援を行っていく
- 高齢化に伴いボランティア、参加者ともに次の世代が居ない状況にある。
ボランティアが活動しやすいように、また、参加者が増えるような活動や支援を行っていく

地域づくりサロン事業のご紹介！！ ～竹富町ふれあいサロンの活動～

✽ 工作、ぬり絵、習字、グランドゴルフ、ペタンク等

・各サロン毎にボランティアと一緒にレクに取り組む利用者達



✽ 子ども達との交流



✽ ボランティア情報交流会



20, 訪問介護事業(訪問介護ステーションさみん)

介護保険サービスでは、ヘルパーができるサービス・時間には決まりがあります。

まず、ヘルパーの仕事内容は「身体介護」と「生活援助」に分かれています。

「身体介護」とは…ヘルパーが高齢者の身体に触れ食事介助、入浴介助、排泄介助、あるいは歩行介助など、**直接利用者の身体に触れること**が「身体介護」です。

「生活援助」とは…「身体介護」と違い、掃除や洗濯、買い物、調理など**日常の家事をお手伝いする**のが「生活援助」です。

訪問介護員(ホームヘルパー)は、何でも手伝ってくれるわけではありません

身体介護でできないこと

【医療行為】

- ・特殊な形態の爪きり(白癬により肥大している爪など)
- ・褥瘡の処置

生活援助でできないこと

【直接本人の援助に該当しない行為】

- ・家族の部屋の清掃
- ・家族の方の洗濯・調理・買物・布団干し
- ・車・自転車・車椅子の点検・清掃
- ・家業の手伝い(商品の販売・農作業)
- ・来客の応接(お茶・食事の手配等)
- ・家具の移動や電気器具の修理
- ・床のワックスかけ、窓のガラス拭き
- ・家具の修理

【日常的に行われる家事の範囲を超える行為】

- ・大掃除、家具の移動、模様替え
- ・正月や節句などの季節特別料理
- ・庭掃除、草木の手入れ、草取り など

【ホームヘルパーが行わなくても日常生活を営むのに支障が生じないと判断される行為】

- ・ペットの世話
- ・金銭・財産管理
- ・公共機関や公文書などの代理人行為
- ・年賀状の作成 など

◇個々の事情を鑑みて柔軟に対応してくれる場合もあるので、ケアマネジャーに相談してみるとよいでしょう。◇

【事業実績】

地区別利用者人数内訳

平成31年3月現在

介 護

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	合計
要介護	5	2	0	2	1	0	10
要支援	1	3	2	1	3	0	10
事業対象者	0	1	0	2	4	0	7

障がい者支援

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	合計
利用者人数	0	0	0	1	0	0	1

竹富町委託事業 障がい者移動支援事業

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	合計
利用者人数	0	1	0	1	0	0	2

登録ヘルパー

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
登録ヘルパー数	6	1	3	1	1	3	0

【成果】

- ・ほぼ赤字を出さずに運営できた
- ・年末年始も休みなく365日訪問できた
- ・介護ヘルパーさんが大きなケガや病気もなく、無事に年度を過ごすことが出来た。また、利用者さんにも怪我をさせたりすることがなかった。
- ・年に一度訪問する親族から、室内がきれいになったと喜ばれた。
- ・掃除をしなかった方が、ヘルパーが来る日は自分の出来る範囲での掃除をするようになった。

【課題】

- ・登録ヘルパーが居ても、一日2,3件の訪問件数だと生活が出来ないからと断られる。

・常勤職員の休みの調整が厳しく、休みの日数が少ない。代休も取れず、年休も捨てている。

- ・ヘルパー会議の日程調整がしづらく、出来ていない。
- ・民間(楷成会)に移行する、しない、どうなっているのかわからず、働く側に不安を与えている。
- ・事業者は社協であり、事業所だけで運営しているわけではない。今後の運営、民間移行についても十分に協議をしてほしいと思います。

♪常勤訪問介護員のある1日♪

- 8:00.. 西表大原行の船に乗る → 大原の到着 → 社協の車で大富の利用者さん宅へ
- 9:00.. 利用者Aさんの生活支援。室内の掃除機かけ、床の水拭き、トイレ清掃、洗濯物回収
- 10:00.. 大原に戻って、利用者Bさんの生活支援。室内の掃除機かけ、台所、水回りの清掃、床の水拭き
- 11:10.. 大原で移動し 利用者Cさんの身体介護。入浴介助。ベッドから車椅子へ移動介助、更衣介助、排せつ介助、入浴介助、薬の塗布
- 12:00.. 西部へ移動
- 13:00.. 祖納 利用者Dさん宅へ、入浴支援。移動見守り、入浴見守り、出来ない所のお手伝い。その後、室内の掃除機かけ、浴室、トイレの掃除。
- 14:10.. 住吉 利用者Eさん宅へ、室内掃除機かけ、浴室、トイレ掃除、床の水拭き
- 16:30.. 大原に戻り、船で石垣へ。 17:20 事務所に戻り事務作業。

この日は1日の中で東部と西部を合わせて回る例です。利用者さんの希望の曜日や時間帯によって、ヘルパーの1人は東部、1人は西部と分かれる時もあります。経由便を使い、午前は西表、午後は竹富と回る時もあります。

担当者の想い...

訪問ヘルパーは利用者さんに寄り添って支援したい

竹富町は離島の離島で、みな等しく介護保険サービスを利用できるようにと介護保険料を払っているのに、十分なサービスを受けられず島に帰れない人が多い。

また、島によっては夜の訪問や毎日の訪問、土日の訪問ができず施設や島外に行く人も居る。

出来る限り、竹富町社協のサービスなのでニーズに応えたいが、島のヘルパーさんが居ないとサービスも充実出来ない。

今後、老人が増えていくにつれ様々なニーズが出てくるときに石垣からの訪問で賄えるのか？、これからの竹富町社協としての介護事業の展開をどのようにしていくのか？5年後、10年後の我が島の介護事情は？と、皆さんと一緒に事業運営を考えてほしいです。

介護保険サービスでは、ヘルパーができるサービス・時間には決まりがあります。
まず、ヘルパーの仕事内容は「身体介護」と「生活援助」に分かれています。

「身体介護」とは・・・ヘルパーが高齢者の身体に触れ食事介助、入浴介助、排泄介助、あるいは歩行介助など、**直接利用者の身体に触れること**が「身体介護」です。

「生活援助」とは・・・「身体介護」と違い、掃除や洗濯、買い物、調理など**日常の家事をお手伝いする**のが「生活援助」です。

訪問介護員（ホームヘルパー）は、何でも手伝ってくれるわけではありません

上で、ホームヘルパーの仕事内容について説明しましたが、「**身体介護だから**」とか「**生活援助だから**」と**いって何でも手伝える訳ではありません**。

例えば、以下の行為はヘルパーさんをお願いしても手助けしてもらえません。

身体介護でできないこと

【医療行為】

- ・特殊な形態の爪きり(白癬により肥大している爪など)
- ・褥瘡の処置

生活援助でできないこと

【直接本人の援助に該当しない行為】

- ・家族の部屋の清掃
- ・家族の方の洗濯・調理・買い物・布団干し
- ・車・自転車・車椅子の点検・清掃
- ・家業の手伝い（商品の販売・農作業）
- ・来客の応接（お茶・食事の手配等） など

【日常的に行われる家事の範囲を超える行為】

- ・大掃除、家具の移動、模様替え
- ・正月や節句などの季節特別料理
- ・庭掃除、草木の手入れ、草取り など

【ホームヘルパーが行わなくても日常生活を営むのに支障が生じないと判断される行為】

- ・ペットの世話
- ・金銭・財産管理
- ・公共機関や公文書などの代理人行為
- ・年賀状の作成 など

どこまでがヘルパーの援助範囲かの線引きは介護保険制度では明確でなく、市区町村ごとにマイナールールがある場合があります。

個々の事情を鑑みて柔軟に対応してくれる町もありますので、ケアマネジャーに相談してみるとよいでしょう。

19. 訪問介護事業（訪問介護ステーションさみん）

【目的】

県指定	介護	要介護状態にある高齢者に対し、適正な指定訪問介護を提供することを目的とする。
	障がい	利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立った適切な指定居宅介護の提供を確保することを目的とする。
町指定	総合事業	「介護予防・日常生活支援総合事業」要支援1,2の方と事業対象者の方に対して心身の特性を踏まえて、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことが出来るよう、入浴、排せつ等の身体介護及び掃除、洗濯等の家事援助その他生活全般にわたる援助を行う。
町受託事業	移動支援	障害者等のうち、屋外で移動が困難な者（以下「障がい者等」という。）に対して、外出のための支援を行うことにより、地域における自立生活及び社会参加の促進を図ることを目的とする。

【内容】

介護保険制度における在宅の要支援者・要介護者に対し、訪問介護員（ヘルパー/介護福祉士・初任者研修）が利用者宅を訪れ、身体介護（排泄や入浴の援助）や生活介助（調理、洗濯、掃除等）を行う。

また、障害者総合支援法に基づく障害者居宅介護、竹富町が実施している障がい者移動支援事業を実施。

【事業実績】

地区別利用者人数内訳

平成30年3月現在

介護

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
要介護	3	1	3	2	0	0	0
要支援	1	4	1	4	7	0	0
事業対象者	0	1	0	1	3	0	0

障がい

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	1	0	0	1	0	0	0

移動支援

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	0	1	0	1	0	0	0

登録ヘルパー

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
登録ヘルパー数	3	1	4	0	1	3	0

【成果】

・赤字を出さずに運営できた

・年末年始も休みなく365日訪問できた

・介護ヘルパーさんが大きなケガや病気もなく、無事に年度を過ごすことが出来た。また、利用者さんにも怪我をさせたりすることがなかった。

【課題】

- ・登録ヘルパーが居ても、一日2, 3件の訪問件数だと生活が出来ないからと断られる。
- ・常勤職員の休みの調整が厳しく、休みの日数が少ない。
- ・ヘルパー会議の日程調整がしづらく、出来ていない。
- ・老人介護だけではなく、障がい者の支援も行っているので戸惑いながらやっている。また、研修の機会が少ない。
- ・次年度から生活支援員の新資格ができる、竹富町と連携し、ヘルパー2級(初任者研修)を受けてない人で生活援助だけ行ってくれるヘルパーの開拓をしたい。
- ・ますます、軽度者が増えていく様子なので、有償ボランティアなどの仕組みを作っていかなければと思う。(ゴミ出しや、ちょっとした掃除等)竹富町総合事業で行う予定

18. 訪問介護事業(訪問介護ステーションさみん)

【目的】

国 保	介護	要介護状態(介護予防にあっては要支援状態)にある高齢者に対し、適正な指定訪問介護(介護予防訪問介護)を提供することを目的とする。
	障がい	利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立った適切な指定居宅介護の提供を確保することを目的とする。
町 受 託 事 業	軽度生活	日常生活を営むのに支障がある在宅のひとり暮らし高齢者等に対して、生活援助員(以下「援助員」という。)を派遣し、ひとり暮らし高齢者等が地域の中で安心して自立した生活を営むことができるよう、軽易な日常生活上の援助を行うことにより高齢者等の福祉の向上を図ることを目的とする。
	移動支援	障害者等のうち、屋外で移動が困難な者(以下「障がい者等」という。)に対して、外出のための支援を行うことにより、地域における自立生活及び社会参加の促進を図ることを目的とする。

【内容】

介護保険制度における在宅の要支援者・要介護者に対し、訪問介護員(ヘルパー)が利用者宅を訪れ、身体介護(排泄や入浴の援助)や生活介助(調理、洗濯、掃除等)を行う。

また、障害者総合支援法に基づく障害者居宅介護、竹富町が実施している軽度生活支援事業

(介護保険以外でサービスが必要と認められた方への家事援助、外出支援等)、障がい者移動支援事業を実施。

【事業実績】

地区別利用者人数内訳 平成29年3月現在

介護

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
要介護	2	2	3	2	0	1	0
要支援	2	3	2	5	10	0	0

障がい

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	1	0	0	1	0	0	0

軽度生活

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	0	0	0	0	1	0	0

移動支援

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	0	0	0	1	0	0	0

登録ヘルパー

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
登録ヘルパー数	2	1	4	0	1	0	1

軽度生活支援員

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
ヘルパー以外	0	0	0	0	1	0	0

【成果】

竹富島在中のヘルパーが世代交代しつつあり、新しい人が頑張ってくれている。

お正月も休みなく訪問ができ、利用者家族から喜ばれた。

竹富で新規に障がいの支援に入ることが出来た。

- ・竹富で夜の訪問が始まった。
- ・船浮にも訪問支援に入れることが出来た。
- ・午前はデイで午後は訪問に行けるように人件費の削減ができた。

【課題】

- ・島外のヘルパーが良いという利用者さんもある
- ・登録ヘルパーを多くしても、常勤者が居ないといけないので結局人件費の削減にはならない。
- ・事務所が狭く、相談室もないため、いつも竹富町の町史編纂室を利用しているが、個人情報の観点からこのままではよくない。
- ・竹富島でのヘルパー養成講座受講の方に仕事を振り分けていきたい

21 , 居宅介護等支援事業(訪問介護ステーションさみん)

【目的】

介護	要介護状態(介護予防にあっては要支援状態)にある高齢者に対し、適正な指定訪問介護(介護予防訪問介護)を提供することを目的とする。
障がい	利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立った適切な指定居宅介護の提供を確保することを目的とする。
軽度生活	日常生活を営むのに支障がある在宅のひとり暮らし高齢者等に対して、生活援助員(以下「援助員」という。)を派遣し、ひとり暮らし高齢者等が地域の中で安心して自立した生活を営むことができるよう、軽易な日常生活上の援助を行うことにより高齢者等の福祉の向上を図ることを目的とする。
移動支援	障害者等のつち、屋外で移動が困難な者(以下「障がい者等」という。)に対して、外出のための支援を行うことにより、地域における自立生活及び社会参加の促進を図ることを目的とする。

【内容】

介護保険制度における在宅の要支援者・要介護者に対し、訪問介護員が利用者宅を訪れ、身体介護(排泄や入浴の援助)や生活介助(調理、洗濯、掃除等)を行う。

また、障害者総合支援法に基づく障害者居宅介護、竹富町が実施している軽度生活支援事業(介護保険以外でサービスが必要と認められた方への家事援助、外出支援等)、障がい者移動支援事業を実施。

訪問介護事業所には事業の規模に応じて1名以上のサービス提供責任者の配置が義務づけられている。

常勤換算法で2.5名以上の訪問介護員が必要

【事業実績】

地区別利用者人数内訳

平成28年3月現在

介護

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	4	2	5	4	4	0	0
うち要支援者	1		2	2	4	0	

障がい

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	0	0	0	1	0	0	0

軽度生活

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	0	0	0	0	2	0	0

移動支援

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	0	0	0	1	0	0	0

登録ヘルパー

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
登録ヘルパー数	1	1	4	0	1	0	1

軽度生活支援員

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
ヘルパー以外	0	0	0	0	1	0	0

【成果】

- ・西部地区に登録ヘルパーさんを一人配置できたので、冬場の上原行が欠航時にとても助かった。
- ・竹富町の障がい者移動支援事業を行い、ふだん訪問に行っている利用者さんが石垣に行くときの付添いができるようになった。
- ・今年度は大みそか、正月も訪問したので365日の訪問介護ができた
- ・大原で看取りの方の訪問介護ができ、本人も家族も喜んでいた。

【課題】

- ・早朝、夜間の対応が出来ない。
- ・島外のヘルパーが良いという利用者さんもいる
- ・登録ヘルパーを多くしても、常勤者が居ないといけないので結局人件費の削減にはならない。
- ・竹富町の利用者だけだと、赤字経営になる。石垣の利用者を増やすと、離島に行けなくなる。どうしたらよいかわからない。
- ・事務所が狭く、相談室もないため、いつも竹富町の町史編纂室を利用しているが、個人情報の観点からこのままではよくない。
- ・気軽に利用者さんの顔が見に行けない
- ・竹富町の離島等相当にしたいが、介護のほうは条例があるが、障がいは離島等相当がないので出来ない。

ヘルパー以外	0	0	0	0	1	0	0
--------	---	---	---	---	---	---	---

【成果】

- ・西部地区に登録ヘルパーさんを一人配置できたので、冬場の上原行が欠航時にとても助かった。
- ・竹富町の障がい者移動支援事業を行い、ふだん訪問に行っている利用者が石垣に行くときの付添いができるようになった
- ・前年度は年末年始の訪問ができなかったが、年末は12/30、年始は1/2より訪問が出来た

【課題】

- ・早朝、夜間の対応が出来ない。
- ・島外のヘルパーが良いという利用者さんもいる
- ・登録ヘルパーを多くしても、常勤者が居ないといけないので結局人件費の削減にはならない。
- ・竹富町の利用者だけだと、赤字経営になる。石垣の利用者を増やすと、離島に行けなくなる。どうしたらよいかわからない。
- ・事務所が狭く、相談室もないため、いつも竹富町の町史編纂室を利用しているが、個人情報の観点からこのままではよくない
- ・気軽に利用者さんの顔が見に行けない
- ・竹富町の離島等相当にしたいが、介護のほうは条例があるが、障がいは離島等相当がないので出来ない。

21, 離島等相当居宅介護支援事業(離島等相当居宅介護支援事業所さみん)

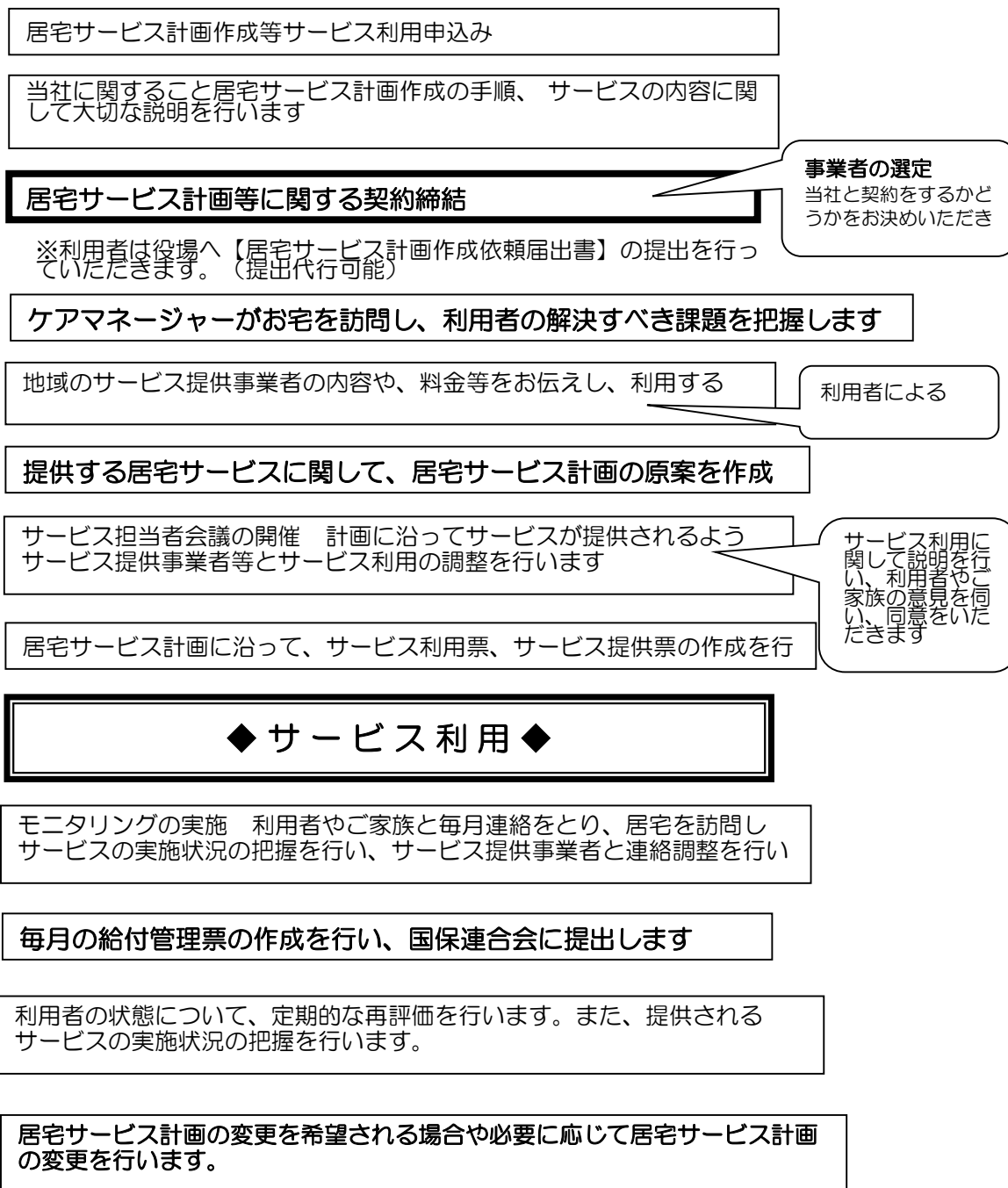
目的

事業所の介護支援専門員が要介護状態又は要支援状態にある高齢者に対し、適正且つ円滑な居宅介護支援を提供する

実施内容

事業所の介護支援専門員は、利用者が要介護、要支援状態であっても、可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を送れるように配慮し、利用者の意向に基づき適切な保健医療、福祉サービスが多様な事業者から総合かつ効率的に提供されるよう、公正中立な居宅支援を行う

サービス提供の標準的な流れ



【事業実績】

地区別利用者人数内訳

平成31年度 4月現在

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	厚生園
利用者人数	5	0	3	10	5	2	0
要支援者	0	0	0	0	0	0	0
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0

合計 25

月別利用者人数内訳

(国保連請求実績)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
要介護	22	23	24	24	25	25
要支援者・事業対象者	0	0	0	0	0	0

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護	25	21	11	4	3	0
要支援者・事業対象者	0	0	0	0	0	0

サービス担当者会議の開催回数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
回数	6	4	0	6	2	2

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
回数	1	1	3	0	0	0

22. 離島等相当通所介護事業・予防介護事業

【目的】

要介護・要支援者にある利用者に対し、その利用者の有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行う指定通所介護・指定予防通所介護の事業を提供し、利用者の居宅における自立力の維持、向上へ繋げ、要支援者の介護状態への移行を予防すること、併せてご家族の身体的、精神的負担の軽減を図る。

【事業内容】

実施場所	竹富島	月、火、水、金
	黒島	月、水、金
	西表東部	火、木

営業時間 10:00～16:00

【成果と課題】

西表東部においては、事業対象者及び支援の利用者様が多く、事業収益が上がらない状況にあります。

各島でサービスの拡大が求められていますが、スタッフ不足により、人材育成が思うように行われていないため、黒島は利用者が増えず、苦慮している状況です。

上記は今後の重要課題と理解しており、また、人材確保は危急な課題であり、介護職員の募集、育成は根気強く続けて行かなければならない。

地域連携サービスの適正な運営を確保するため、各地域（島）で、「運営推進会議」を開催することが義務付けられ、地域に開かれたサービスを提供することで、サービスの質の確保を図らなければならない。

平成 29 年度実績

地区名	種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
竹富 週 5 回	介護	82	94	100	88	96	93	105	119	91	88	92	17	1065
	予防	19	22	18	18	26	28	28	30	21	13	15	90	328
	計	101	116	118	106	122	121	133	149	112	101	107	107	1393
黒島 週 3 回	介護	62	68	56	57	66	78	60	64	51	81	67	78	788
	予防	18	13	11	7	10	8	15	16	14	10	12	14	148
	計	80	81	67	64	76	86	75	80	65	91	79	92	936
西 表 東部 週 3 回	介護	21	19	27	26	29	21	38	53	43	43	38	47	405
	予防	26	25	26	30	34	25	23	22	37	31	38	44	361
	計	47	44	53	56	63	46	61	75	80	74	76	91	766
合計		228	241	238	226	261	253	269	304	257	266	262	290	3095

【事業実績】

平成 30 年度実績

地区名	種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
竹富 週 5 回	介護	87	92	110	114	147	134	140	127	125	109	97	94	1376
	予防	19	21	16	14	23	19	19	11	11	15	17	20	205
	計	106	113	126	128	170	153	159	138	136	124	114	114	1581
黒島 週 3 回	介護	54	44	43	36	38	37	36	42	27	15	17	25	414
	予防	12	16	12	11	12	8	12	14	14	14	14	17	156
	計	66	60	55	47	50	45	48	56	41	29	31	42	570
西 表 東部 週 3 回	介護	31	38	36	36	33	30	40	28	34	33	31	26	396
	予防	43	54	51	46	40	19	26	39	22	23	21	20	404
	計	74	92	87	82	73	49	66	67	56	56	52	46	800
合計		246	265	268	257	293	247	273	261	233	209	197	202	2951

*竹富 10 月より週 4 回

*東部 10 月より週 2 回